「季節の花 300」
http://www.hana300.comより
（写真・説明文引用）

大犬のフグリ
（おおいぬのふぐり）
花言葉…忠実、信頼、清らかなど

ヨーロッパ地方原産。明治時代に渡来。道端に多く生え雑草のようだが、かたまって咲いているととてもきれい。色はルリ色。日が当たると花びらを広げる。日がかげると閉じる。丸みのある腎臓形の実が犬のフグリに似ていることからこの名前になった。

花のお便り

2017.2　No.128
E-mail : info@miyazaki-p.co.jp
http : //www.miyazaki-p.co.jp/
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山5-33-2
TEL. 03-5384-1331・FAX. 03-3305-2528

「保護主義」「米国第一」を大統領令で次々と一方的な決定を発表するトランプは止まる所を知らない。日本にも基地負担の増額や貿易関税について、不当なことを言っていくるだろう。ならばこの際だから、安保条約で軍事的にも経済的にも従属関係を強要させられている関係を破棄し、本当の独立を宣言してみたら。どうせ米軍は、日本を守るのではなく、アジア・ロシアににらみを利かせ、中東やアフガンへの拠点とすることが目的なんだから。もしかしたら米国は、沖縄の日本化を狙っているのかも。

八幡山商店街で伝統野菜「下山千歳白菜」を使い「江戸東京白菜まつり」開催!!

私鉄京王線八幡山駅にある商店街「八幡山商福会振興組合」は、毎年恒例の行事が多いので有名だ。夏休みに行う「早朝ラジオ体操の集い」クマモンや芸人を呼ぶおまつり「わっしょい八幡山」各地で行われるようになった街バル、世田谷では最初に企画した「八幡山ちょい飲み食べあるき」はすでに3回行われている。そして今回の白菜の企画と休む間もなく精力的に活動している。特徴は地元の住民に福引券や買い物券を発行し、地元に還元している。そしてなんといっても、会長以下商店主が一緒になって楽しんでいるところが凄い。今回は北烏山在住の下山繁雄さんが造る伝統野菜「下山千歳白菜」を使って、飲食店10店のシェフが腕を振るった。なにせこの白菜は背の高さが50cm、重さが10kgと普通の白菜の2～3倍はある。大型なのに味はめっぽう旨い。ところがその大きさゆえに、核家族化した現代には合わず、一度は消えた幻の白菜なのである。住民の希望で前述の下山さんが一肌脱ぐ格好となった。と言う訳で弊社が、宣伝関係のパンフレットやチラシ・ポスターの作成を任されている。

気まぐれエッセイ　年末のきままな男二人旅

からびょん▶

年末も押し詰まった12月24・25日男二人の旅が始まった。朝7時私の家までM氏が愛車で迎えに来る。順調に調布ＩＣより中央高速へと入る。しばらく走ると「あ、登山靴を忘れた」と私。時すでに遅く引き返す訳にもいかず、目的の瑞牆山はあきらめ、スニーカーでも登れる三ツ峠へと変更。これがハプニングの始まりだった。三ツ峠は快晴、雪を冠ぶった富士山が歓迎の挨拶。下山は勝沼のぶどう園の若い娘さんと、山やキャンプの話しで盛り上がり、あっという間に到着。　―若き娘と話しも尽きず息白し―　次のハプニングは、予定していたキャンプ場が5年前に閉鎖。ネットで探したところに無事到着。さて次は温泉そして食事だがこれも予定した店が満杯。ネットで検索、第三セクターの風呂付イタリアン5000円を予約。―イブの夜男二人のディナーかなー　朝目覚め、まずはコーヒーとまたもや検索。韮崎の141沿いの脱サラのコーヒー屋さんへ。コーヒーの香りと共にパンの香りも。近くのパン職人の娘さんが出店。パンも買い孫の土産にサンタのパンも買う。　―サンタ絵のパン買ひており田舎道―　昼は近くの古民家の蕎麦屋へ。ここはお勧めの味処だ。―喉ごしの音控へおり冬座敷―　さらに瑞牆山を眺めながら、廃校の喫茶店で一杯。帰り道の東山梨駅前の肉屋でさくら肉を買い一路東京へ。―さくら肉買いし日暮れの年の瀬やー